

Toubi

版

東 備

赤磐支局 TEL(086)952-0049 FAX(086)952-2810

われら エコ先進隊

作業場の片隅に置かれた箱形の機械。大きめの洗濯機のようなが、実は軽油の代わりになるクリーンエネルギーを作り出す「魔法の箱」だ。

箱の正体は、廃食用油からバイオディーゼル燃料(BDF)を精製するプラント。揚げ物に使った後のどろどろの油にメタノールとカセイソーダを加えて加熱しながら混ぜ、処理を重ねると、黄金色をしたさらさらのBDFができる。

5 備前みどりのまほろば協議会

廃油回収しBDF精製



廃食用油からBDFを精製するプラントを操作するタックの瀧川社長。「エネルギーの地産地消」を目指している

の「地産地消」と事業の意義を強調する。精製コストは百十五円で、現在の軽油価格よりやや高いものの、原油価格が高騰した昨年の一時期は採算ベースにのった。

製造されたBDFは現在、タックが社有のディーゼル車四台を使って走行実験を重ねているが、燃費は一割当たり約十キロと軽油とそん色ないレベル。「エンジン音がとても静か。遠くは新潟まで往

(事務局・同市役所) 市と瀬戸内市、岡山市は昨年九月、精製プラントを持つトンネル工油回収ステーションを専用資機材製造・販売会社タック(同市吉永町南方)と共同で、廃食用油を回収し、BDFを製造する事業をスタートした。

公共施設への太陽光発電パネルの設置、環境啓発の出版授業…。まほろば協議会はこれまでに、さまざまなグリーンエネルギー事業を展開してきた。今回再利用が動き出し

記者の一言

として回収の輪が広がることを期待したい。事業の一端を担うのは油を出す家庭。それだけに成功には地域の理解と協力が不可欠だ。(藤田勝久)

収集車に将来利用

復した」と同社の山内悟部長(西)。備前市は将来、ごみ収集車などへのBDF利用を想定しているが、油に粘りが出る可能性がある厳冬の走行をクリアすれば、導入は現実的なものになりそうだ。現在までに回収した油は約九百リットルだが、プラントでは日量百リットルのBDFを精製できる。タックの瀧川信二社長(右)は「回収量が少ないので学校などに協力を呼びかけたい。もうけにはなりにくい、地域貢献の一環として続けていきたい」と話す。

を介

赤磐市を中心とする主婦や高齢者が、市中央図書館(同市下市)を拠点に活動する読み聞かせボランティアグループを結成。今月、新たな「おはなしかい」をスタートさせた。(大島望)

さない 支部 み回収



がけ下に不法投棄されたごみを回収したクリーン作戦